

もりおか

広報 2016

8月1日号(No.1438)

理想の音を追い求めて

盛岡の夏を彩る「盛岡さんさ踊り」。8月1日から4日間行われる本番に向け、毎年街のあちらこちらで、太鼓や笛を練習する音色が響き渡ります。

城西町にある創業196年の老舗「小松太鼓店」の5代目・小松仁さん(59)は、市内で数少ないさんさ太鼓職人の一人。小松さんが太鼓作りに初めて関わったのは大学生の頃。現在のさんさ踊りパレードが昭和53年に始まったことがきっかけで、当時父親が営む店に大量の注文が寄せられました。学生生活を送っていた仙台から急きよ呼び戻され、父親を手伝ったのが最初です。卒業後は跡を継ぎ、太鼓作り一筋で今日まで来しました。始めは大量注文に応えることに精一杯でしたが、現在は「叩き手にとって理想の音を追及したい」と質にこだわります。

太鼓作りの工程で最も神経を使うのは、

「カガミ」と呼ばれる皮の部分。仕入れた牛革を指先の感覚だけを頼りに均一に削り、納得のいく音になるよう調整。気温や湿度が上がりすぎない盛岡の気候は太鼓作りに最適で、夏場であれば半月ほどで完成します。

「自分が作った太鼓は一目で分かる」という小松さん。縫い方などに作り手の特徴が現れる手仕事の技を、将来の6代目に受け継ぎ、独り立ちできるように少しずつ仕事を教えています。

「丈夫な太鼓でも、長く使うには保管方法が重要。適度に空気にさらし、皮の部分を床に付けないように置くことが、良い音を保つ秘訣」とは、叩き手に向けてのアドバイス。

黒地に赤い三角模様が美しいさんさ太鼓。体に響く力強いその音には、受け継がれてきた作り手の、熱い思いとこだわりが込められています。



◆主な内容◆ (平成28年8月1日号)

- | | |
|--|--------|
| 盛岡花火の祭典、玉山夏まつり、炬火集火式、秋まつり山車参加者募集、短歌甲子園 | 2~3ページ |
| 盛岡文士劇チケット先行販売、劇団モリオカ市民参加者募集、家庭ごみ収集運搬体制の見直し、市職員募集 | 4ページ |
| シェイクアウトに参加しよう! | 8ページ |